

コロナ感染症の5類感染症への移行後の 学校教育活動の在り方について

校長 森 勝義

令和5（2023）年度も授業開始から1ヶ月経ちました。年間42回の授業が予定されている中で4回目の授業が始まります。園児や児童生徒の表情もすこぶる明るくなってきているように感じます。日本はゴールデンウィーク中です。最大で9連休のお休みを取ることが可能だそうです。

さて、日本の文部科学省では、コロナ感染症が5類感染症に移行されることを受けて、学校教育活動の展開に当たっては、これまで制限されてきた学校における様々な教育活動の展開を検討することが必要であるとの見解を出しました。それを受けて次のような活動を再開されることが考えられます。

・多様な集団編成による学習

教科の授業でのグループ別学習や、学級活動や児童会、生徒会活動での同学年や異年齢による集団活動などの機会を増やす。

・全校一斉参加を伴う学校行事

参加人数を抑え、学年ごとや学級ごとの開催していた学校行事について、全校一斉参加の形で行うことで、異学年や他学級との交流の機会を確保する。

・休み時間や給食等における児童生徒の交流

授業等の特定の目標に向かって学習を進める場以外でも児童生徒の交流を増やす。

また、学校での教育活動に当たっては家庭の協力を得つつ、多様な体験活動を取り入れ、児童生徒の成長の機会を確保することも重要であると思います。

しかしながら、インディアナ日本語学校では、州、マリオン郡の状況、借用校の「コロナ感染症衛生管理マニュアル」に沿っての取組を鑑み検討しています。現状は保護者の方が校内に入ることが下校時のみ可となっています。保護者の皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

・ほのぼのとしたお話

保護者の会、役員のからいただきましたちょっとほのぼのとした、そして誇らしい話

「ロビーにて保護者の会の役員が教室案内やノート販売などの業務に追われていたところ、高学年以上の生徒たちが低学年の教室案内を手伝ってくれた場面があり、本当に助かりました。」と、報告がありました。大変なこともたくさんありますが、頑張っていこうと思った出来事でした。」

日本語学校に通っている、園児・児童生徒の皆さんはとても温かな心の持ち主がたくさんいることを知ることができ、とても誇らしく思いました。小学低学年が園児を、小学高学年が低学年を、中学生が小学生を、

そして高校生が中学生の面倒をしっかりとみて、サポートしている姿は、まさしくひとつ屋根の下に異校種の子どもたちが集い、学習し、学校生活を送っている素晴らしさだと思います。複数の先生方から運動会は「高等部」の生徒に任せておけば大丈夫との話を聞きました。普段から「縦割り親切」ができていいるからこそだと思います。今から運動会が楽しみです。

* 5月13日：図書室閉室（図書室は開けません。本の貸出はなく、返却もできません）

落語の特別授業（落語子供体験会）を受けて

飯田 怜

ぼくは、今まで落語を少しだけ見たことがありました。だけど、手ぬぐいやせんすなどをふったりしていても、何をしているのかよく分かりませんでした。今回、ぼくが 落語の授業で面白いと思ったことは三つあります。

まず 一つ目は、落語には落ちの種類がたくさんあるところです。例えば、仕込み落ちや 考え落ちなど、他にもあと十種類以上もの落ちがあり、とてもおもしろいと思いました。

次におもしろいと思ったところは、せんすを手ぬぐいだけで、たくさんの物を表現しているところです。ぼくがやったら、表現が下手で、見ている人は「この人は何をしているのだろう。」となるのに、そうならないのがすごいと思いました。

三つ目は、一人でたくさんの人を演じているところです。例えば、表じょうを変えたり、声をかえたりしているところが面白いと思いました。なぜかという、ぼくだったら、すぐに声を変えることはできないし、同じような声になってしまうからです。一人で色んな人が本当に会話しているように感じさせることができるのはすごいと思いました。

授業を受けて、落語がとてもおもしろかったので、もっと色々な種類の落語を見たいと思いました。

熊谷 咲那

今まで、落語は、わたしにはまだむずかしいと思っていたけれど、落語は想像力で見ることができると知って、とてもおどろきました。そもそも、わたしは落語に興味がなかったのですが、この授業を受けて、落語に興味を持つことができました。

落語はてぬぐいとせんすの二つの道具を使い、所作でいろいろなことをするというのは知っていたのですが、授業でやってみて、むずかしいなと思いました。また、落語家の人は、一人でたくさんの人を演じるときに、自分の向く方向を変えたり、声をかえたりして、たくさんの人を演じわけるということにびっくりしました。落語の所作で、飲む、食べるなどの音を口で出しているところがすごいと思いました。戸をたたく時の音を、せんすで床をたたいて出すこともありました。

実際、落語を見ていると、とても面白かったのですが、もっとたくさんのお話をききたいと思いました。

安藤 歌耶

私は日本にいたとき、おじいちゃんとおばあちゃんがテレビで落語をみているのを見ました。初めてみたとき、私は興味がありませんでした。今回、授業でビデオを見て、ざぶとんに正座をして、手元にはせんすを手ぬぐいしかおいていないのに、声の調子や顔の表情と向きで登場人物をいっぱい作って、一人で全部やっているのはおどろきました。そして、楽しいし、笑えるお話をすることも知りませんでした。私は、授業のときに見たお話の中で、おばけが皿を数えるお話が好きでした。始めは、村人たちが町へ来て、おばけがお皿を数えて九まいになる前に走って帰るというのを毎日くり返していたら、ある日、おばけがお皿を十八まいまで数えていたのがおもしろかったです。私は今度、日本に帰ったら、おじいちゃん・おばあちゃんと一緒に落語のお話をテレビで見たいです。

花野 瑛都

ぼくは、落語はすごいことだと思いました。なぜなら、落語は、本当の物をつかわないで、手ぬぐいとせんすだけで話をするからです。

落語は、一人の人がざぶとんに座ってお話をします。落語家に階級があることも知らなかったし、二つの道具だけで、お話をつくるということはすごいと思います。落語でそばを食べているときの表現の音は、本当にそばを食べているような音でした。授業でやってみましたが、その音はどうやっても出せませんでした。今回見た落語は、とてもおもしろい物語で笑ってしまいました。

このように、落語の動画をみてすごいと思ったことは、二つの道具で話をつくることと、口や顔で表す表現です。落語の仕草の動画で、あまりにも本当にそばを食べているようだったので、ぼくはそばが食べたいと思ってしまいました。

阿部 圭寿

落語の動画を見る機会をありがとうございました。落語のおもしろいところなどを「落ち」というのを始めて知りました。ぼくはよく笑点を見ていて、落語家がせんすなどを使っていたり、仕草など色々なまねをしたりしているのはわかっていたのですが、せんすを手ぬぐいだけをつかっているというのは初めて知りました。落語を見るのが久しぶりだったので、授業ではすごく楽しみながら見ることができました。色々な仕草をしていた動画で、そばを食べている仕草をしていたのをみんなでまねしてみたんですが、落語家さんたちと比べて、あまりいい音が出せず、すごくむずかしかったです。また、自分の身体全体を使って、色々な仕草をする動画で良いお酒を飲んだ時とまずいお酒を飲んでいる時のちがいがすごく差があり、面白かったです。良い、おいしいお酒を飲んで

いるときの顔は、すごく良い顔をしていたのですが、まずいお酒を飲んでいるときの顔は変な顔をしていて、まずいのに、おいしいぞ、という感じをだそうとしていて楽しかったです。 ぼくも、どっちもやってみましたが、やはりできませんでした。ぼくが日本に帰ったら、落語を見に行きたいと思います。

山口 帝臥

ぼくは、落語の授業の前、「落語とはなんだろう？」と思っていました。だけど、色々な動画を見ていくと、落語がすこしずつどういものなのかが分かってきました。特に、むかし話の「はなさかじいさん」が落語になると、「はなさんか、じいさん」という言葉は似ていても、まったく別のお話になっていたところがおもしろくて、他の昔話を落語にしたものも調べてみたいと思いました。落語以外にも日本にはたくさんの伝統芸能があるそうです。歌ぶきや能についても調べたいと思いました。最初、落語は難しいものだと思っていましたが、小さな子どもから大人まで楽しめる伝統芸能が落語なんじゃないかというふうに思うようになりました。

石山 勉

ぼくが落語の授業で4つのことを学びました。

始めに学んだのは、落語の歴史です。落語は江戸時代のころからずっと、多くの人たちに楽しまれてきたということが分かりました。

二つ目は落語の仕草です。落語では、声の扱い、顔の表情、手、など全身を使って色々な仕草をして、話を伝えることがわかりました。他にも、せんすと手ぬぐいを使って、色々な表現ができることが分かりました。

三つ目は、想像力です。落語は見る人に想像力がないと、落語家が何を表現しているのかがわからないのです。落語では、本物を使わず、仕草や音を使って、何をしているのかを表現しているので、想像力がないと、何の仕草なのかが分からず、落語が分からないと思いました。

四つ目は、太鼓についてです。落語では、太鼓を使って、お客様をよぶことができたり、合図を出すことができたりし、ひとつひとつに意味があるということを学びました。

社会の特別授業（スバル 泉山様）を受けて

工藤 遥翔

社会の特別授業では、泉山さんに自動車をつくる会社のことやスバルのことの教えてもらいました。

ぼくは、自動車をつくる時に使う機械や部品がとても興味深いと思いました。ぼくが、何かをつくったり、組み立てたりするのが大好きだからです

もっと調べてみたいと思ったところは、自動車のメーカーの数、世界にある自動車生産会社の数、他にもありますが、一番調べてみたいと思ったのは、スバルはどんな自動車をつくっているのか、どれだけアメリカでスバルの車が売れているのか、そして、スバルは世界にどんな影響を与えているのかということです。

そして、ぼくがビックリしたことは、泉山さんが言っていた「スバルは笑顔をつくる会社です。」という言葉です。ぼくは、今まで、スバルは他の会社と同じように、ただ車を作っている会社と思っていたので、とてもおどろきました。

これからは、そういったちがう面からも会社をみることにしようと思いました。

金田 彩愛

私が社会の特別授業でビックリしたことは、車の安全を確かめる実験で、車をこわすことです。アメリカで時々、走っている車も実験に使った車なのかなと思いました。もう一つビックリしたことは、車の安全を確かめる実験で、つぶれた所以外はもう一度、他の車の部品になることです。でも、車をこわしちゃうのはもったいないと思いました。それなら、私に一台くれないかな、とも思いました。車がこわれる様子がとてもこわかったので、お父さんとお母さんに安全運転をしてね、と言いました。私はとてもこわがりなので、そういう実験はできないなと思いました。なので、実験をしている人たちはすごいなと思いました。

次にもっと調べてみたいと思うことは、いつぐらいから安全確認がされるようになったのかということです。それと、安全の実験をするときにスピードをどのくらい出しているのか調べてみたいです。

今回の春休みは、三泊四日で家族でシカゴに行きました。

ぼくが一番の目的は、アドラープラネタリウムでした。アドラープラネタリウムは、アメリカで一番古いプラネタリウムです。ぼくが、アドラープラネタリウムで一番好きだったものをせつめいします。それは、どうやっていん石が落ちて、地面にクレーターを作るかを見せるせつびです。ボタンをおすと、いん石みたいな物が落ちて、大きな音が出ます。すると、そこにはクレーターができています。初めてこういうものを見ることができて良かったです。フィールドミュージアムにも行きました。時間がなかったので、半分くらいしか見ることはできませんでした。そこには本物のきょうりゅうの骨があって、それをさわらせてくれました。かたくて、でこぼこだけど、つるつるしていました。色は、白に茶色がまざったような色でした。

日本のスーパー、ミツワにも行きました。そこでブルーベリーとイチゴと生クリームの入ったクレープを食べました。やわらかくて、フルーツがさわやかで、とてもおいしかったです。ミツワではびっくりすることがありました。ぐうぜん日本語学校の仲良しのクラスメートに会いました。

他には、シカゴ現代美術館に行きました。たくさん歩いて足がいたくなかったけど、とても楽しい旅行でした。

私は、春休みに日本へ一時帰国しました。一番楽しかった事は、徳之島という島に行ったことです。なぜかという、徳之島には私のおばあちゃんが住んでいるからです。徳之島で海に行って貝拾いをしたことが一番楽しかったです。他にも、日本の図書館に行って本をかりたり、お友だちとあそんだり、自分のおこづかいで買い物したり、いろいろな事が日本でできました。次は本帰国するかもしれないので、その時はもっと楽しみたいです。

私は、春休みにカリフォルニアのディズニーランドとアドベンチャーパークへ行きました。残念ながら2日間とも雨でした。カップを着て行きましたが服やくつ下もぬれました。でもお昼になると短い時間でしたが、晴れたので、雨で乗れなかったアトラクションに乗るために並びに行きました。

私達家族が、一番楽しみにしていたアトラクションは、アドベンチャーパークにあるカーズの「ラジエーター スプリングス レーサー」という車でレースをするジェットコースターのような乗り物です。私はジェットコースターが大好きで、車に乗るようなタイプは初めて乗ったので、とてもおもしろかったです。その乗り物は雨が降っていると乗れなかったもので、ちょっとの間でしたが、雨がやんでよかったなと思いました。

雨がふったり、少し晴れたり、また雨がふったりしていた2日間だったけど、春休みに家族で楽しい思い出が作れました。今度行くときは、朝からずっと晴れてほしいです。

「白いぼうし」の音読をきいて印象に残ったシーンの挿絵

